

小規模多機能型居宅介護 ひとい木
自己評価

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 7年 5月 21日 (水)

1. 初期支援 (はじめのかかわり)

メンバー 伊藤・所・神谷・大西・草間・阿礼・疋田・北岡・須田・布谷・藤井・村上・蟹江

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	3人	11人	人	人	14人

前回の改善計画
各職員における初回訪問は、同行訪問による対応を行うだけでなく、自宅の環境等を動画に収めるなど、情報共有方法を工夫する

前回の改善計画に対する取組み結果
人員の問題で、介護スタッフの初回の同行訪問はほぼ行えなかった。動画に収めることは難しかったが、必要な部分については写真などを用いて申し送りを行ってきた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	3	9	2		14
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	4	8	2		14
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	1	12	1		14
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	1	9	4		14

できている点
パソコンのシステムやビジネスチャット・ミーティングを活用して、利用前に情報共有は比較的できている。特にビジネスチャットは日々の申し送りをする習慣があるので、フェースシートを共有して全員が確認することができていた。また、送迎時など意識的に家族と会話をして、できるだけ本人の不安がないよう聞き取りをしている。帰りには利用中の様子を伝えることで、家族の不安の解消にも繋がったと感じている。

できていない点
初回訪問時に人員や長い時間の確保が難しかったため、写真での共有はできたが動画までは活用できなかった。また勤務の都合上、初回訪問がすぐにはできないことがあったり、2回目以降の訪問までの間隔が空いてしまいがちで、関わり始めの生活状況の把握が難しいといった声があった。
初回利用の方は不安が多く手厚い関わりが必要だと思うが、意識をして関わらないと関りが少なくなりがちだった。

次回までの具体的な改善計画
・初回利用者を分かりやすく訪問表に標記し、積極的に関わられるようにする。
・訪問に自信がなければ、複数回同行訪問する。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 7年 5月 21日 (水)

2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)

メンバー 伊藤・所・神谷・大西・草間・阿礼・疋田・北岡・須田・布谷・藤井・村上・蟹江

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	2人	12人	人	14人

前回の改善計画
各職員が利用者さんの「～したい」を聞き取るために、聞いた情報を職員が自由に手書きで記入できる場所を設ける。(案:利用者さんの各ファイルに用紙を入れる)また、ビジネスチャットにて利用者さんの「やりたい」ことを共有していく場を作っていく。
前回の改善計画に対する取組み結果
「～したい」を聞き取るための用紙は準備したが、書き込みがほぼなかった状態だった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか?		6	6	2	14
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?		5	7	2	14
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?		1	13		14
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?		4	9	1	14

できている点
ケアプランを確認することで、本人の目指す生活が何であるのかを理解して、意識して関わる事ができたという声があった。日々の会話の中で、「～したいこと、やりたいこと」について尋ねることはできた。ケア内容については、ビジネスチャット内での申し送りや毎月のケア会議などを活用することで、全体で振り返りを行ったり、対応策を検討したりすることができていた。

できていない点
聞き取ることはできても、皆の意識が低かったせいか「～したい」シートへの記入はできなかった。聞き取った先にどう伝達し、どう行動するのが明確でないためか、聞き取った情報を発信することができていなかった。会話がスムーズにできる方は比較的聞き取りをすることができるが、意思表示が苦手な方やできない方は、聞き取りが難しくできていないこともあった。

次回までの具体的な改善計画
・「～したい」を聞き出せるよう、普段から会話をたくさんする。 ・担当スタッフが聞き取り、個別会議で目標を計画する時に盛り込む。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 7年 5月 21日 (水)

3. 日常生活の支援

メンバー 伊藤・所・神谷・大西・草間・阿礼・疋田・北岡・須田・布谷・藤井・村上・蟹江

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	2人	5人	5人	2人	14人

前回の改善計画
全体で統一したケアを行うために、職員同士の情報の共有の場や利用者さんの目標を話し合う場が必要である。そのため、週1回(参加率の高い月・水・木曜日)、15分~20分程度のケア会議を行う。ケア会議では利用者さんの目標を決めることから行い、目標決定後に具体的なケアの方法を話し合っていく。また、ノートを作ってケア会議録も作成していく。
前回の改善計画に対する取組み結果
登録者が続々と増えていく中、人員や時間の確保が難しくケア会議は行えなかった。が、月1回の職員会議内で個別の支援について話し合う場は設けられていた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?		2	10	2	14
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	3	11			14
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?		8	5	1	14
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	3	10	1		14
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	2	10	2		14

できている点
本人の状況に合わせたケアをするため都度話し合いを行い、自立支援を意識したケアや状態に合わせた支援が行えていた。すぐに対応が必要なことについては、ビジネスチャットを使用することで随時対応ができていた。ケア会議内においても、利用者さんの状態だけでなく発せられた言葉についても情報共有することができた。

できていない点
1週間に1回は個別のケア会議を行うことを決めたが、新規の利用者さんが増えていく中、日々の対応に追われてしまい会議の開催ができなかった。スタッフによっては勤務の都合上、訪問にあまり行けない場合もある。そうした時に自宅での生活環境の理解が、しづらい側面があった。

次回までの具体的な改善計画
・利用者さん・家族・スタッフ同士 もっと話す機会を作っていく。 ・定期的に個別会議を行い、目標・ケアの統一を話し合い共有する。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 7年 5月 21日 (水)

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 伊藤・所・神谷・大西・草間・阿礼・疋田・北岡・須田・布谷・藤井・村上・蟹江

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	人	4人	10人	人	14人

前回の改善計画
長良地域の社会資源の理解が乏しいことから、自主的に勉強会を行い理解に繋げていく。また、地域包括支援センターに伺うことや、長良地区で開催されているサロンなどに参加をすることで、知見を広げていく。

前回の改善計画に対する取組み結果
長良地区で開催されている筋トレサロンに参加していたが、ここ数か月は人員の確保ができずできていない。包括と絡んだ勉強会などの機会も作ることはできなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?		5	8	1	14
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?		8	5	1	14
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?		5	6	3	14
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?			10	4	14

できている点
サロンや地域の行事に参加する機会を作っていただき、地域の活動に参加することができた。参加したスタッフからは「地域について少し知ることができた。」という声も上がっていた。利用者さんの地域の方々との接点ができるよう、訪問時近隣の方と会った際に意識的に挨拶をしたり、話しかけたりすることを意識的に行った。

できていない点
ケアマネジャーはこれまでの経験上社会資源についてある程度の理解はあるが、現場のスタッフについてはあまり知る機会がなく、意識を持つこともなかなかできていない状況。利用者さん個人の生活面については深くアセスメントすることができるが、地域との関わりという視点が持ちにくい。近所の方の協力が得られるよう、近隣の方などへ働きかけることは積極的に行えなかった。

次回までの具体的な改善計画
・これまでの生活スタイルを理解できるよう、少しずつでも本人・家族から聞き取る。
・スタッフ全員が外部の催しに参加できるようにする。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 7年 5月 21日 (水)

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 伊藤・所・神谷・大西・草間・阿礼・疋田・北岡・須田・布谷・藤井・村上・蟹江

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	3人	9人	2人	人	14人

前回の改善計画
 当事業所のサービスだけでなく地域の資源を使って支援を行っていくために、少しずつ関わりを持ち始めているスーパーや薬局などに声掛けをしていき、そこから活動の場を広げていく。当事業所だけで支援を完結せず、長良地域の中の一事業所として支えていける体制を構築していく。

前回の改善計画に対する取組み結果
 利用者さんが利用するコンビニエンスストアと連携を図り見守り体制を整えるなど、地域の手も借りながら支援をしている。他の機関の制度を利用した支援なども行っている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	1	8	5		14
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	7	5	2		14
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができますか?	8	5	1		14
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	8	6			14

できている点
 ニーズに応じて当日でもサービスの変更をしたり、体調に合わせて食形態やサービスの変更を行うなど、都度柔軟な対応や支援ができた。日々の関りの中で利用者さんの変化に気付いた際には、ケア会議やビジネスチャットの申し送りなどを活用しながら、細かな部分まで共有することができている。

できていない点
 利用者さんによっては、外部の方々との接点が少ない方もみえる。個人情報の問題もあり、本人が望まない場合は地域住民の方々との接点が持ちにくい方も見えるのも事実。民生委員や社会福祉協議会など、地域の資源を活用している方もみえるが、他のスタッフに発信していないためか認識されていない。

次回までの具体的な改善計画

- ・近隣住民と会った際は、積極的に挨拶などをする。
- ・お弁当屋やヤクルトなどに会った時は、声をかけて情報収集をする。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 7年 5月 21日 (水)

6. 連携・協働

メンバー 伊藤・所・神谷・大西・草間・阿礼・疋田・北岡・須田・布谷・藤井・村上・蟹江

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	6人	6人	2人	14人

前回の改善計画
町内会などの地域の活動に参加してみたいが、地域の情報や参加方法が分からない。自治会や民生委員の方をお願いをして、地域の集まりに参画できるか相談していく。参加が可能であれば、計画や立案を立てていく。
前回の改善計画に対する取組み結果
地域の夏祭りへの参加をさせてもらい、地域の雰囲気を楽しむことができた。今後も機会があれば参加していきたい。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	その他のサービス機関（医療機関、訪問看護、福祉用具等他事業所）との会議を行っていますか？	2	2	3	7	14
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？		1	3	10	14
③	地域の各種機関・団体（自治会、町内会、婦人会、消防団等）の活動やイベントに参加していますか？			8	6	14
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか？	1	6	3	4	14

できている点
人員が確保できる時限定にはなってしまったが、筋トレサロンに参加することはできた。1年くらい継続して、毎週ボランティアの方が事業所を訪れてくれている。秋祭りは児童センターの子供たちを招待したり、地域の方を招いて開催することができた。登録者以外の方が事業所を訪れる貴重な機会になった。

できていない点
ひとい木以外のサービス機関との会議は、必要時に行うことができていた。ただ、地域や他のサービス機関との関わりは、限られたスタッフしか関わっていないため、できていないと感じるスタッフの方が多かった。また、現場のスタッフは、外部との会議の有無について把握できていない状況がある。

次回までの具体的な改善計画
<ul style="list-style-type: none">・カフェのチラシを再度配り、地域の方に気軽によってもらえるよう働きかける。利用者さんのご近所さんにも声をかけていく。・地域の行事を把握して参加できるようにしていく。・チームごとに、地域へ関われる場所を新規開拓する。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 7年 5月 21日 (水)

7. 運営

メンバー 伊藤・所・神谷・大西・草間・阿礼・疋田・北岡・須田・布谷・藤井・村上・蟹江

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1人	10人	3人	人	14人

前回の改善計画
当事業所はまだまだ地域の認知度が低い。認知度を高め、地域に必要とされる拠点となるために、「ひとい木」という場所が地域の方にとって気軽に足を運べるよう場所になるような戦略を立てていく。そのため、長良地域の子どもから年配の方まで気軽に参加ができるようなカフェなどの開催の検討をしていく。

前回の改善計画に対する取組み結果
月1回「ひとい木カフェ」を開催しているが、集客率はあまり良くはない。今後どのような場としていきたいのかは検討が必要。認知度自体は、徐々にではあるが広がってきている感覚はある。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができているか?	1	5	4	4	14
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	4	3	6	1	14
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1	5	5	3	14
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?	1	6	6	1	14

できている点
毎月第3水曜日に「ひとい木カフェ」を開催することができ、多くはないが何人かの方に事業所のことを知ってもらうことができた。介護のことで不安がある方が相談に来て下さるケースもあった。お向かいの薬局さんには、継続して新聞エコバックを置かせてもらっている。定期的に補充に行くが、だいたい空になっている所を見ると、地域の方々に受け入れてもらえているように感じている。

できていない点
色々な活動を通して、少しずつ小多機というサービスを知ってもらえるようになってきたが、まだ不十分と感じることもある。「ひとい木カフェ」の集客がいまいちで、元々の目的の地域の交流の場とまではなれていない。カフェを知ってもらうための策を講じることができたら、良かったのではないかと感じている。

次回までの具体的な改善計画

- ・積極的に来客者と話をする。
- ・子供も参加できるように、カフェの開催を(土)にして子供とも関りを作りたい。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 7年 5月 21日 (水)

8. 質を向上するための取組み

メンバー 伊藤・所・神谷・大西・草間・阿礼・疋田・北岡・須田・布谷・藤井・村上・蟹江

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	11人	2人	1人	14人

前回の改善計画
サービスの質を向上していくため、介助方法の統一を図る。介助方法の統一のために、リハ職を中心として、直接的な動作指導やビデオ撮影による介助方法の提示を行う。また、利用者さんの目標を明確にすることにより、目標を意識した介助をそれぞれが行えるようにしていく。
前回の改善計画に対する取組み結果
動画などを利用した情報共有はできなかったが、ビジネスチャットを活用した申し送りにより、介助方法の伝達は出来得る限りで行った。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか	1	3	8	2	14
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか		2	6	6	14
③	地域連絡会に参加していますか			2	12	14
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	2	9	1	2	14

できている点
委員会に参加しているスタッフは、他施設で起きた事故を知り対策を考えることで、自事業所のリスクについても考える機会となった。インシデントを会議で共有し、リスクマネジメントに対する話し合いを会議などで行っていたので、訪問先でのトラブルに対応できたという声があった。

できていない点
各職種、資格取得やスキルアップのための研修への参加は、ごく限られた人のみに留まってしまった。法人内の研修についても、勤務の都合上参加できていない人もでるが、その後のアフターフォローが曖昧になってしまっていた。必ず全員に周知できていたかと言われると、出来たとは言えない状況。

次回までの具体的な改善計画
<ul style="list-style-type: none">・介助方法を統一する情報共有をもっとしていく。・インシデントを職員会議で共有し、ファイリングしていつでも見れるようにしておく。・研修に全員参加が出来ているか、チェックリストなどを作って確認していく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 7年 5月 21日 (水)

9. 人権・プライバシー

メンバー 伊藤・所・神谷・大西・草間・阿礼・疋田・北岡・須田・布谷・藤井・村上・蟹江

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	4人	10人	人	人	14人

前回の改善計画
身体拘束・虐待などの研修の参加を行う。また、支援の中でも個人情報が出てしまう危険性もある。利用者さんとのコミュニケーションや提供する資料などに注意をして、利用者さんと関わっていく。
前回の改善計画に対する取組み結果
身体拘束・虐待の研修は年2回ずつ行われているが、全員にしっかりと周知出来ていたかと言われると疑問が残る。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	身体拘束をしていない	10	3	1		14
②	虐待は行われていない	10	3	1		14
③	プライバシーが守られている	4	10			14
④	必要な方に成年後見制度を活用している	3	4	1	6	14
⑤	適正な個人情報の管理ができている	3	8	3		14

できている点
当事業所では身体拘束・虐待はないと思っているという意見が大半だった。できるだけ、利用者さんを敬って行動・会話をしよう気をつけた。事業所内でも身体拘束・虐待防止の研修を行うなど、定期的に学びの機会を作ることができ、日々の関わり方を振り返る時間が持てた。

できていない点
個人情報の取り扱いについては、少し不安な部分がある。利用者さんのケアをしながら、他の利用者さんの状態を別のスタッフに伝えてしまったりすることがあった。プライバシーに関わることもあるため、更なる配慮が必要。虐待・身体拘束の概念の問題で、気付かないうちに該当してしまっていることもあるので、今一度大丈夫であるか見直す必要がある。

次回までの具体的な改善計画
・法人内、事業所内での研修に参加して、各スタッフが理解を深める。全スタッフに周知する。

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	医療法人社団友愛会	代表者	岩砂 智丈	法人・事業所の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・医療法人であることを活かし、看護師・理学療法士を配置し、自立支援のためのケア体制が整っている。 ・地域に向けての活動などに力を入れており、利用者さんがお世話をされる対象ではなく、活躍できる場となるよう日々の活動を行っている。 ・在宅生活を支えるための、柔軟なサービス調整・提供を行っている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 ひとい木	管理者	伊藤 直美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	4人	1人	人	1人	人	2人	人	9人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で統一したケアを行うために、週1回ケア会議を行う。 ・自治会や民生委員の協力を得て、地域行事等に参加する。 ・リハ職から介助方法の指導を受け、ケア方法を統一する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケア会議は、人員の問題で行えなかった。 ・民生委員の集まりで小多機の機能の説明などを行った。 ・リハ職を中心に写真などを活用し、ケアの統一が図れるよう取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・皆さんで協力して活動されていると思いました。 ・利用者さんのできることを引き出して、色々な活動に繋がっていると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当スタッフがアセスメントを実施、定期的な個別会議を開催し、目標・ケアの統一方法を話し合い共有する。 ・研修を実施した際、チェック表などを活用し、全員に周知できたか確認を行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・行事の案内をフェンスに設置し地域の方にお知らせする。 ・適切な温度設定・感染対策を講じることで、過ごしやすい環境設定をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お祭りの際にチラシを配ったり、「ひとい木カフェ」の開催日をフェンスに掲示したり、のぼり旗を出してお知らせできた。 ・適切な感染対策を講じてきたためか、多くの感染者を出すことなく運営できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来設するといつも「あたたかい雰囲気の仕事所だなと思います。」 ・カフェや行事などがあると、事業所にも入りやすいです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所に来られた方のみならず、前を通る方などに積極的にこちらから挨拶をする。 ・玄関から中の様子が分かるように、入り口付近の整理整頓に気を付ける。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者と一緒に、地域で開催されるサロン等へ参加する。 ・地域住民が気軽に足を運べる場所になるよう、定期的に地域住民参加型のカフェを開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者と一緒に筋トレサロンと地域のお祭りに参加して、地域の方との交流機会となった。 ・毎月1回「ひとい木カフェ」を開催し、地域の方に来設してもらえる機会となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ひとい木カフェ」に参加したが、普段なかなか入ることがない介護事業所に入る機会となって良い取り組みだと思った。 ・色々な地域の活動に参加しようという意欲はうかがえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が作成する作品を地域の方へ寄付することで、間接的にも地域の方との関わりを深めていく。 ・「ひとい木カフェ」は月1回の定期開催を継続していく。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状況に応じて、民生委員や近隣のお店・住民の力も借りながら、利用者の在宅生活を支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が普段利用するお店やコンビニの店員、民生委員の方と連携を図り、緊急時の見守り体制などを構築できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所から少し離れたところに居住しているため、地域に出向いているのか分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣住民やお弁当屋、ヤクルトの配達員など、利用者に関わりのある人たちとのコミュニケーションを積極的にとることで、暮らしの変化などの情報収集を行い、変化に迅速に対応する。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で専門職の役割説明や、事例の紹介などを行い、当事業所のサービスのイメージを具体的に持っていただけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で、専門職の関わり方を事例を通して紹介し、当事業所の関わり方や特徴をイメージしていただける機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・映像や写真を見せてもらって、事業所の活動が分かりやすくて良いと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当事業所の認知度がまだ低い状況が見られる。地域の方への発信方法などについて意見を頂戴し、都度対応策を講じていく。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の防災訓練に地域住民の参加を呼びかけ、当事業所の対策などについて理解を深めていただく。 ・地域の防災訓練に参加することで、地域の方がどんな役割を事業所に求めているのかを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごく少数ではあるが、事業所の防災訓練に参加いただけた。 ・人員の問題で地域の防災訓練に参加することができず、当事業所に求めている役割も知ることができなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難経路を聞いたことはあったが、実際に確認はしていない。 ・近所の人と一緒に防災訓練に参加したことがある。 ・近くに介護事業所があると、相談できるので、頼りにしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の地域の避難所をリスト化して把握しておく。 ・災害を想定した訓練を定期的実施し、避難を支援する順番や動きなどを検討しておく。